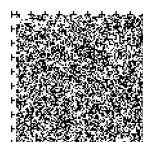


第2章

健康、健康づくりを
めぐる現況と課題



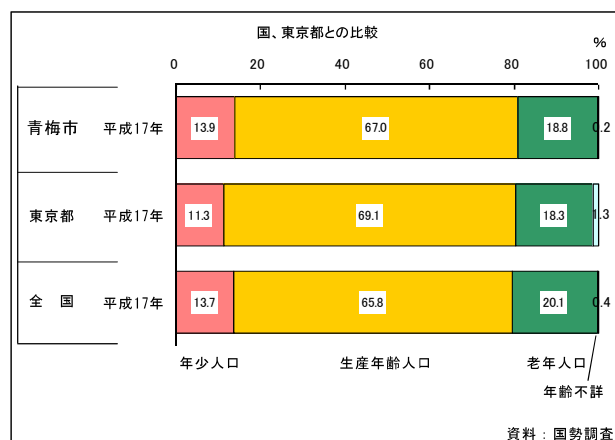
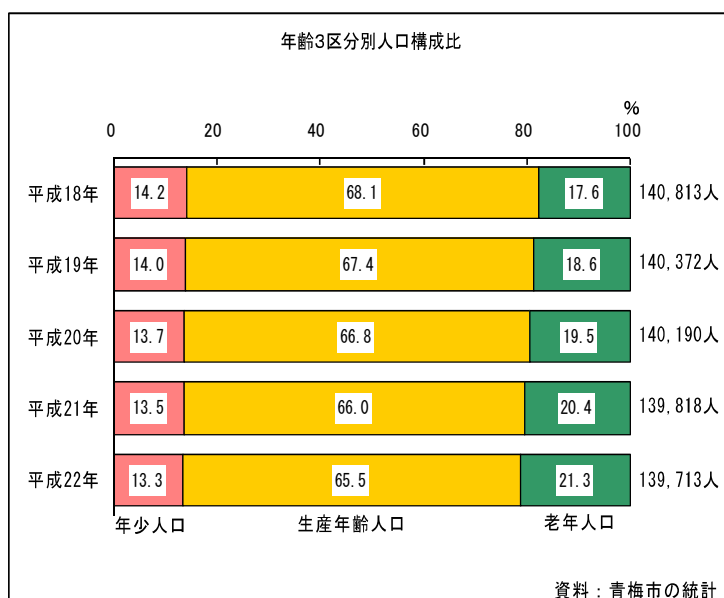
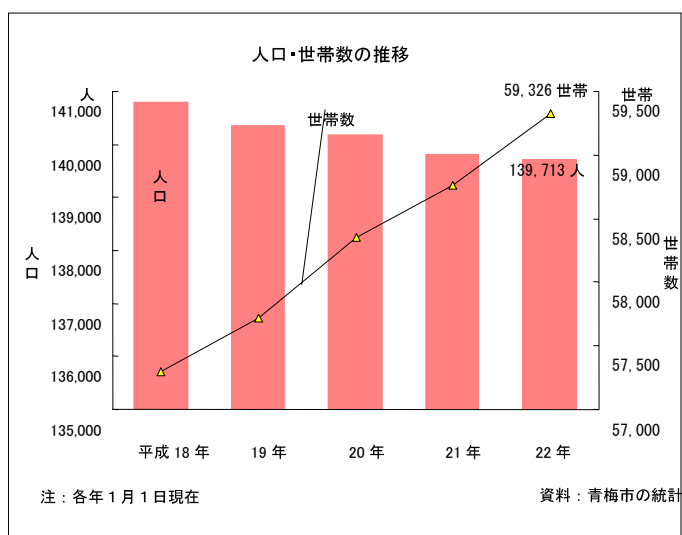
1 市民の健康状況

(1) 少子高齢化の進展

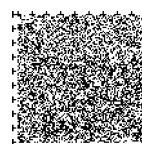
青梅市の総人口は、平成 22 年 1 月 1 日現在で 139,713 人、世帯数は 59,326 世帯となっており、世帯数は毎年増加しているものの、総人口は平成 17 年以降減少しています。

平成 22 年の年齢別人口の構成割合は、年少人口（0～14 歳）13.3%、生産年齢人口（15～64 歳）65.5%、老年人口（65 歳以上）21.3%の構成となっており、少子高齢化は進行しています。

また、国・東京都と直接比較のできる最新値である平成 17 年国勢調査の老年人口比率は 18.8%で、全国平均（20.1%）は下回っているものの、東京都平均（18.3%）を上回っており、高い水準となっています。



※小数第 2 位を四捨五入して割合を算出している関係上、各項目の合計値が 100 にならない箇所があります。



出生・死亡等の状況については、近年一貫して死亡数が出生数を上回っており、人口減傾向の一因となっています。また、低体重児、乳児死亡等は近年やや減少しています。

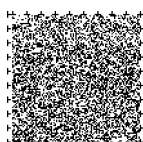
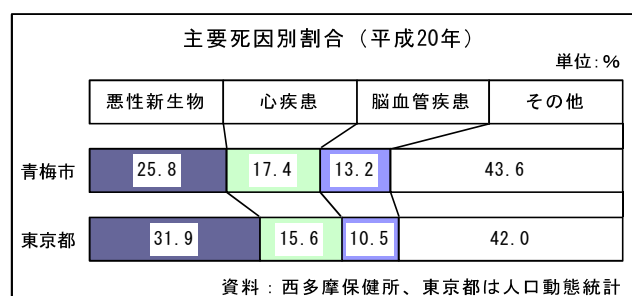
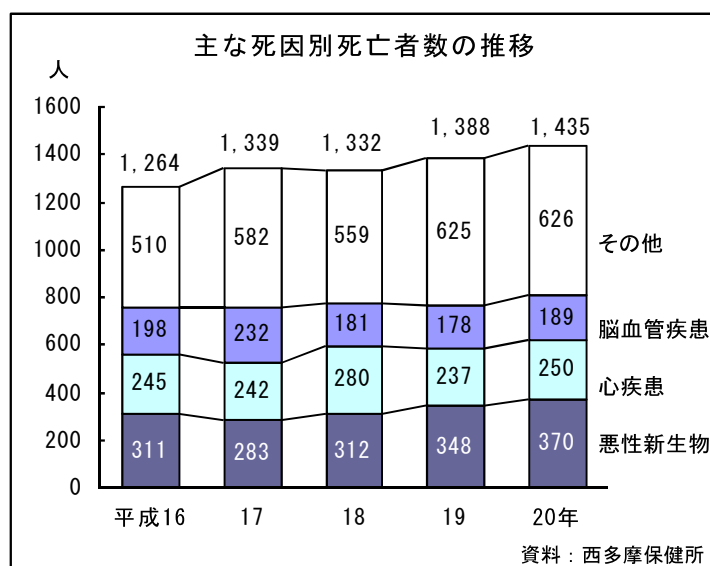
年次（平成）	16	17	18	19	20
出 生	1,220	1,071	1,089	1,080	1,055
低体重児 （再掲）	118	106	115	112	103
死 亡	1,264	1,339	1,332	1,388	1,435
乳児死亡 （再掲）	5	4	4	2	3
死 産	37	38	26	35	39
周産期死亡	12	6	3	7	5
自然増減	-44	-268	-243	-308	-380

注：低体重児とは、出生時の体重が2,500g未満の者をいう。

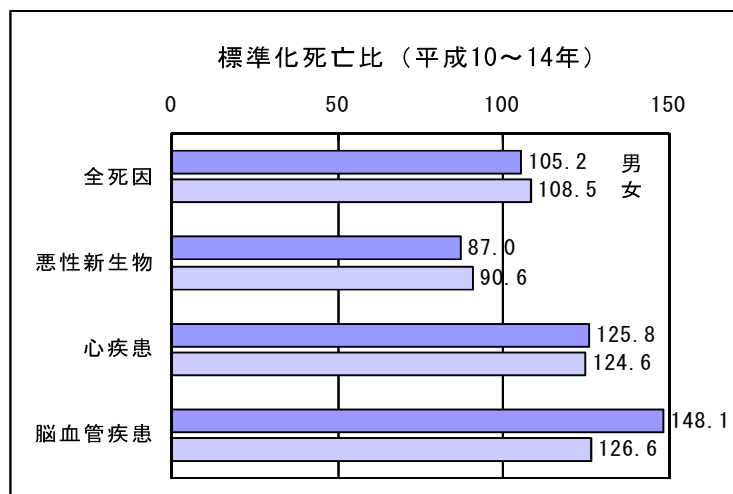
資料：西多摩保健所事業概要

（２）生活習慣病による死因が多い

- 生活習慣と深いかかわりのある悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の三大疾病が、平成20年では総死亡数の56.4%を占めており、これは東京都をやや下回っています。



- 標準化死亡比においては心疾患、脳血管疾患のいずれも全国基準値（100.0）を大きく上回っています。本市の特徴として心疾患、脳血管疾患といった血管に関する死因が多いことがわかります。



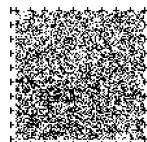
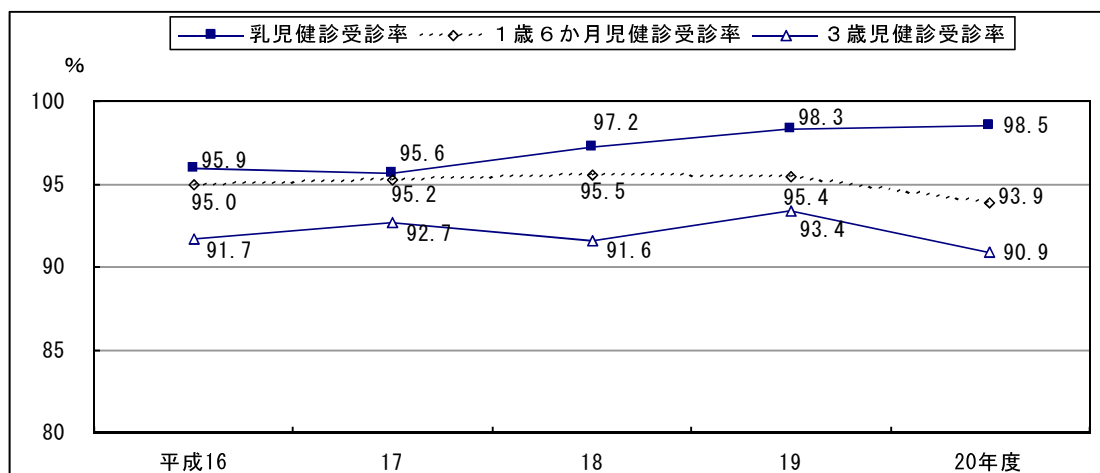
標準化死亡比とは？

年齢構成の違いの影響を除いて死亡率を全国と比較したものであり、おもに小地域の比較に用います。標準化死亡比が基準値（100）より大きいということは、その地域の死亡状況が全国より悪いということを意味し、反対に基準値より小さいということは、全国より良いということを意味します。

（３）各種健診等の状況

① 乳幼児健康診査受診状況

最近５年間は、受診率が乳児健診（３～４か月児）では微増、１歳６か月児健診ではほぼ横ばいで、３歳児健診については微増・微減を繰り返しながら、大きくみると微減となっています。



② 1歳6か月児および3歳児歯科健診の状況

最近5年間で、少子化傾向に伴って対象者数が少しずつ減少してきています。受診率については、1歳6か月児歯科健診では微増していますが、平成20年度は低下しています。3歳児歯科健診では、受診率が微増・微減を繰り返しています。

単位：人

○1歳6か月児歯科健診	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
対象者数	1,218	1,215	1,165	1,118	1,067
受診者数	1,156	1,155	1,109	1,067	1,001
受診率	94.9%	95.1%	95.2%	95.4%	93.8%

単位：人

○3歳児歯科健診	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
対象者数	1,275	1,271	1,217	1,184	1,091
受診者数	1,167	1,175	1,110	1,106	990
受診率	91.5%	92.4%	91.2%	93.4%	90.7%

③ がん検診等の状況

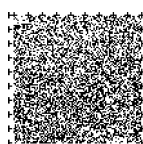
平成19年度までで廃止となった基本健康診査の受診者数は、平成19年度と16年度を比べると4年間で約600人増加しています。また、健診の結果「要医療」と判定された割合を表す「要医療率」は、50数%で一定していました。

各種検診では、胃がん検診、大腸がん検診等で受診者数の増加がみられます。

また、「要精検率」は成人歯科検診で例年9割前後と突出して高くなっているほか、骨密度検診でも比較的高くなっています。

単位：人

		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
基本健康診査	受診者数	15,481	15,158	15,694	16,064	—
	要医療者数	8,262	8,042	8,649	8,572	(廃止→「特定健診」へ)
	要医療率	53.4%	53.1%	55.1%	53.4%	
胃がん検診	受診者数	1,284	1,385	1,419	1,424	1,459
	要精検者数	113	157	170	198	193
	要精検率	8.8%	11.3%	12.0%	13.9%	13.2%
子宮頸がん検診	受診者数	2,389	2,421	2,462	2,179	2,242
	要精検者数	17	23	19	21	18
	要精検率	0.7%	1.0%	0.8%	1.0%	0.8%
乳がん検診	受診者数	1,304	1,375	1,631	1,349	1,630
	要精検者数	259	264	223	157	153
	要精検率	19.9%	19.2%	13.7%	11.6%	9.4%
肺がん検診	受診者数	1,445	1,418	1,377	1,398	1,035
	要精検者数	43	66	57	62	29
	要精検率	3.0%	4.7%	4.1%	4.4%	2.8%
大腸がん検診	受診者数	15,216	14,905	15,390	15,758	16,241
	要精検者数	925	1,041	954	1,061	1,201
	要精検率	6.1%	7.0%	6.2%	6.7%	7.4%
骨密度検診	受診者数	943	883	899	811	950
	要精検者数	240	251	154	122	343
	要精検率	25.5%	28.4%	17.1%	15.0%	36.1%
成人歯科検診	受診者数	425	443	170	190	477
	要精検者数	364	388	154	171	447
	要精検率	85.6%	87.6%	90.6%	90.0%	93.7%
肝炎ウイルス検診	受診者数	1,947	1,803	2,200	236	1,601
	要精検者数	10	11	8	1	12
	要精検率	0.5%	0.6%	0.4%	0.4%	0.7%



④ 総合健康診査（人間ドック）の状況

受診者は、平成 19 年度までは 1,700 人台が続きましたが、平成 20 年度は 1,606 人となっています。要精検率については、例年 4 割前後の値となっています。

○総合健康診査（人間ドック）	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
受診者数	1,740	1,797	1,777	1,779	1,606
正常率	2.7%	1.9%	1.5%	1.2%	1.2%
経過観察率	49.1%	55.3%	56.3%	56.7%	60.1%
要精検率	42.1%	37.7%	38.6%	40.4%	36.5%
要治療率	6.1%	5.1%	3.5%	2.0%	2.1%

（４）国民健康保険給付状況

国民健康保険による受診件数、総費用額、1 件当たりの費用額とも、平成 16～20 年度の間、ほぼ一貫して増加しています。平成 20 年度では、1 件当たりの費用額は 2 万円弱となっています。

また、高額療養費の件数、給付額についても、一貫して増え続けています。

年 度	療 養 給 付 費			高額療養費	
	受診件数	総費用額(円)	1 件当たり 費用額(円)	件 数	給付額(円)
平成16年度	448,960	7,868,831,161	17,527	6,545	572,596,166
平成17年度	489,082	8,761,368,547	17,914	8,061	598,254,413
平成18年度	514,074	9,224,917,767	17,945	8,765	656,806,458
平成19年度	533,148	9,718,089,828	18,228	10,087	714,684,827
平成20年度	544,492	9,879,188,895	18,144	12,542	796,935,237

資料：青梅市保険年金課

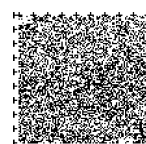
（５）特定健康診査・特定保健指導、後期高齢者医療健康診査の状況

① 特定健康診査・特定保健指導

平成 20 年度から開始された「特定健康診査」の受診率は、42.5%となっています。また、「特定保健指導」の実施率は、「動機付け支援」と「積極的支援」を合わせて 29.4%となっています。

○特定健康診査	平成20年度
受診券発行数	26,774
受診者数	11,370
受診率	42.5%

○特定保健指導		平成20年度
動機付け支援	対象者数	1,005
	実施者数	325
	実施率	32.3%
積極的支援	対象者数	342
	実施者数	71
	実施率	20.8%
計	対象者数	1,347
	実施者数	396
	実施率	29.4%



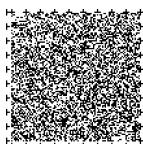
② 後期高齢者医療健康診査

75 歳以上の後期高齢者を対象とした「後期高齢者医療健康診査」も特定健康診査と同時に開始されており、平成 20 年度の受診率は 46.0%となっています。

○後期高齢者医療健康診査	平成20年度
受診券発行数	10,001
受診者数	4,600
受診率	46.0%



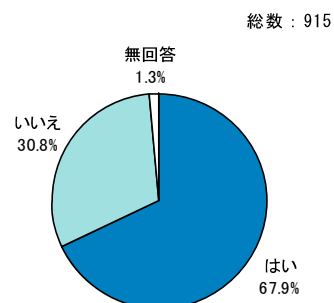
健診結果	異常なし	360
	要 指 導	1,058
	要 医 療	1,118
	治 療 中	2,064



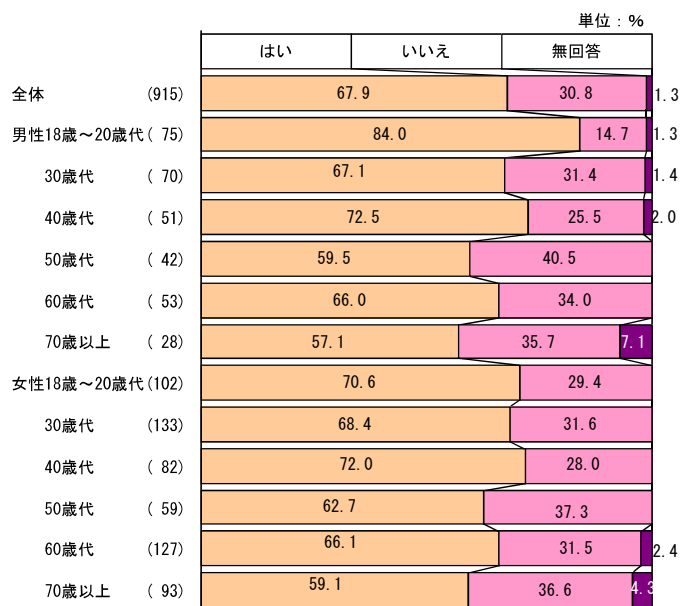
2 健康づくりを取り巻く環境

(1) 健康の意識

- 『自分は健康だと思うか』は、「はい」が7割弱を占めて多くなっています。



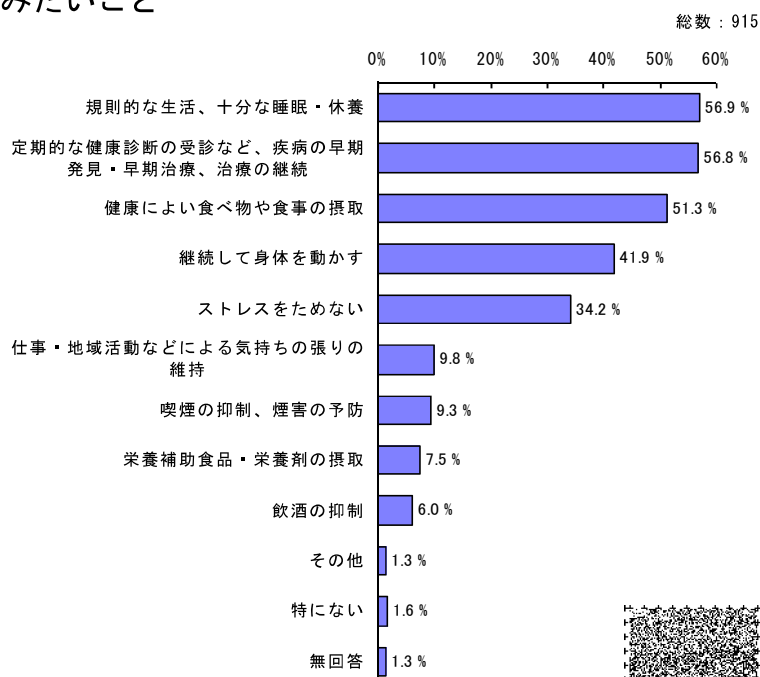
- また、どの年代においても男女とも「はい」が「いいえ」を上回っていますが、男性の50歳代では「いいえ」が4割に達しており、比較的多くなっています。



注：（ ）内は回答者数

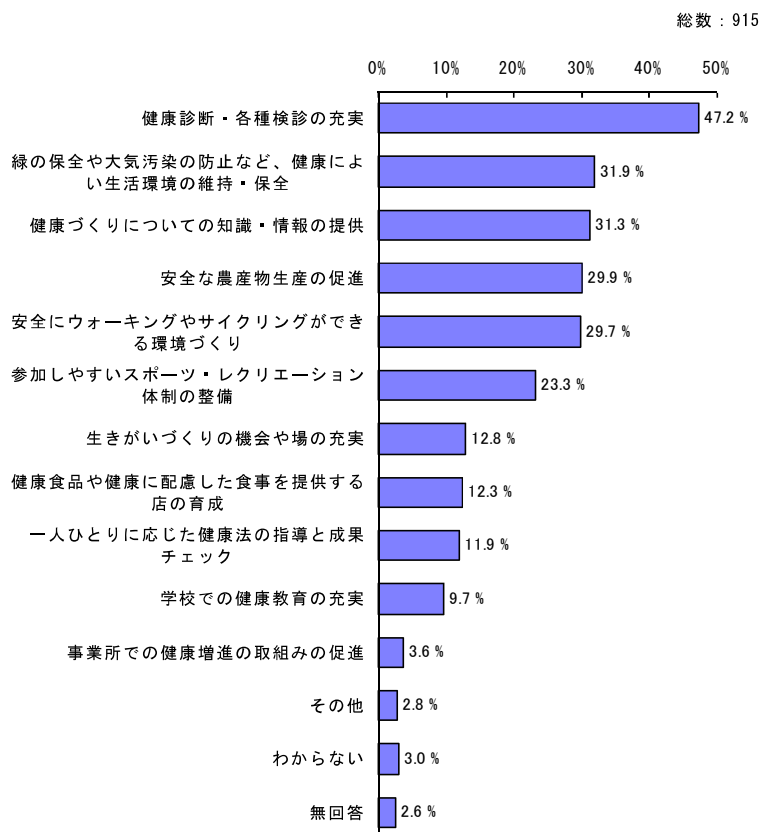
(2) 健康づくりのため重点的に取り組みたいこと

- 『今後、健康づくりのために重点的に取り組みたいこと』は、「規則的な生活、十分な睡眠・休養」と「定期的な健康診断の受診など、疾病の早期発見・早期治療、治療の継続」、「健康によい食べ物や食事の摂取」が特に多くあげられています。



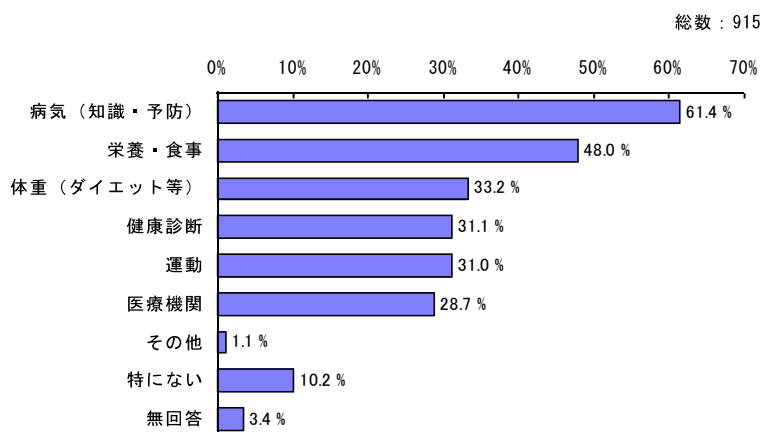
(3) 重点的に取り組んでほしいこと

○ 『健康づくりのために、市に重点的に取り組んでほしいこと』は、「健康診断・各種検診の充実」が最も多く、次いで「緑の保全や大気汚染の防止など、健康によい生活環境の維持・保全」、「健康づくりについての知識・情報の提供」の順で多くなっています。



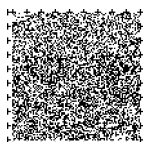
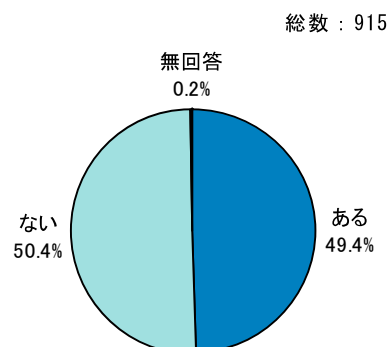
(4) 健康について知りたい情報

○ 『健康に関して知りたい情報』は、「病気（知識・予防）」が多く、次いで「栄養・食事」、「体重（ダイエット等）」となっています。

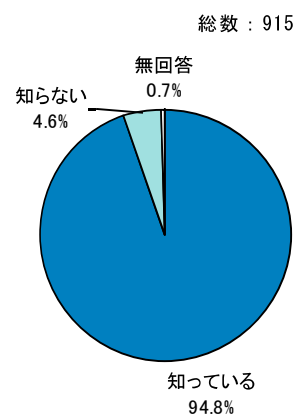


(5) 体重をはかる習慣、肥満と生活習慣病の関係

○ 『週1回以上、体重をはかる習慣があるか』は、「ある」が49.4%、「ない」が50.4%で、ほぼ半々になっています。

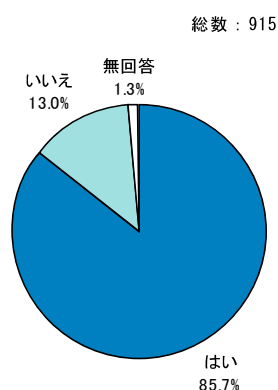


- 『肥満が生活習慣病を引き起こしやすい
していることを知っているか』は、「知っている」が94.8%と、ほとんどの人が知っていることがわかります。

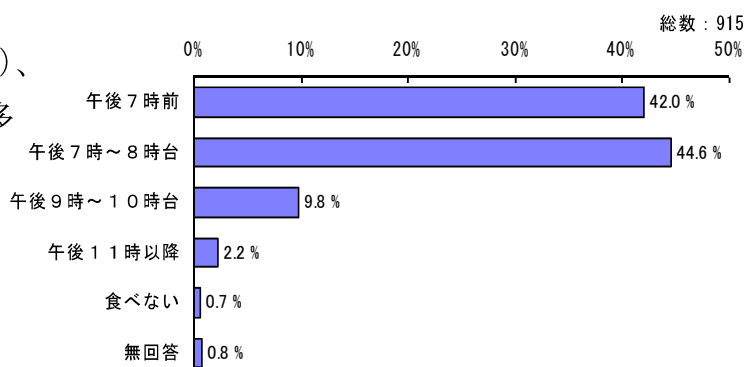


(6) 食生活

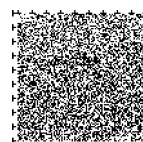
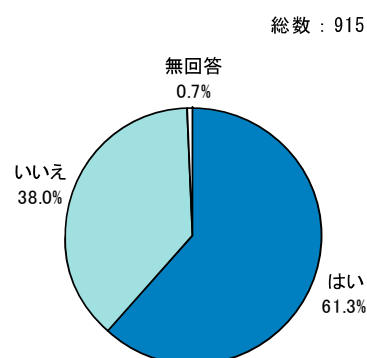
- 朝食の摂取状況についてみると、85.7%の人が「はい（ふだん、朝食をとる）」と答えています。



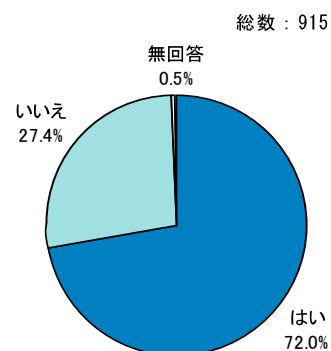
- 夕食の開始時間は何時頃かたずねたところ、「午後7時～8時台」（44.6%）、「午後7時前」（42.0%）との回答が多く、大多数の家庭が午後8時台までに夕食を始めていることが分かります。



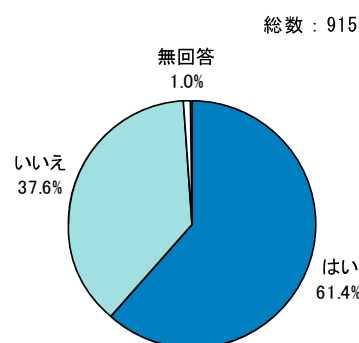
- 『1日1回は、家族や友人等と一緒に30分以上かけて食事をするようにしているか』は、約6割の人が「はい」と答えています。



- 野菜の摂取状況は、72%の人が毎食食べており、
食べていない人を大きく上回っております。



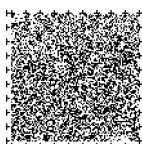
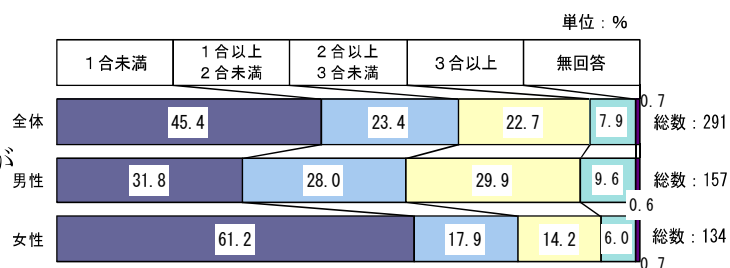
- また、『日頃、塩分控えめ（薄味）に心がけているか』は、61.4%の人が心がけていると答えています。



(7) 飲酒

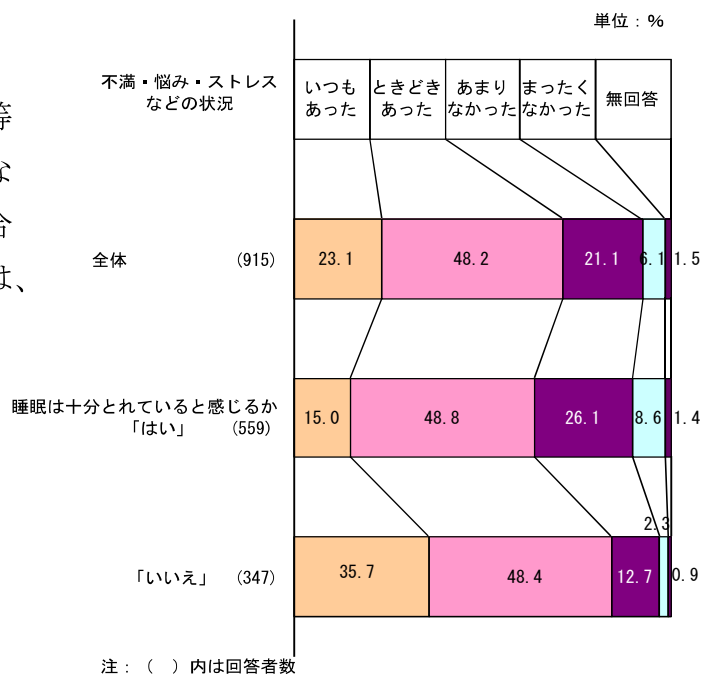
- 飲酒をする人に1日の日本酒換算の分量をきいたところ、45.4%が「1合未満」と回答し、最も多くなっています。

また、男性の方が女性よりも飲酒量が多く、「3合以上」飲むという人がほぼ3割と、女性（14.2%）の2倍以上の割合をしめしています。

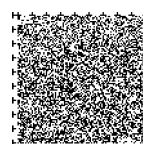
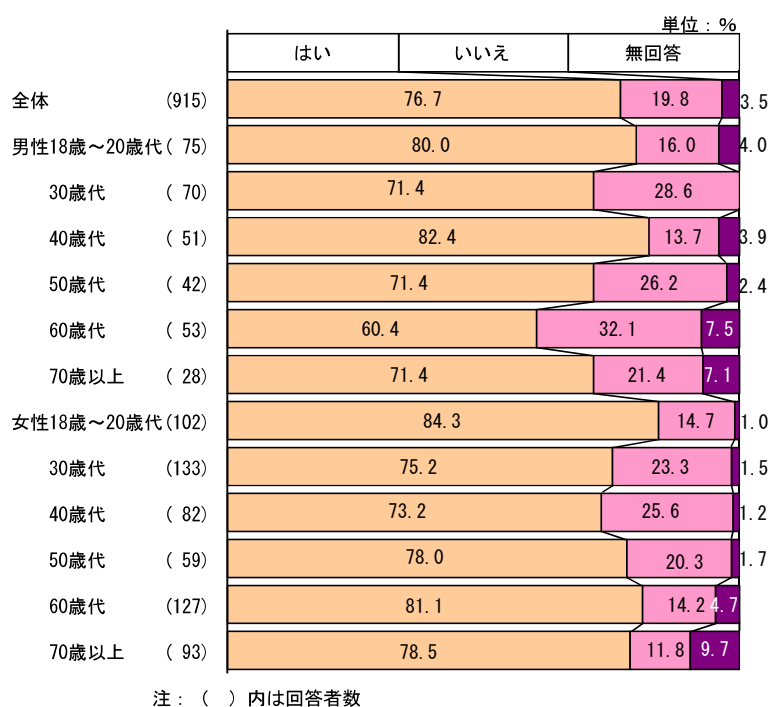


(8) 睡眠とこころの健康

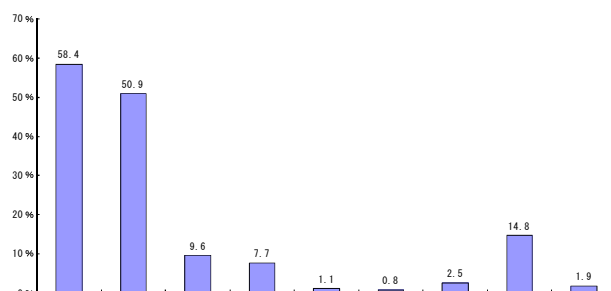
- 睡眠とストレス等の関係では、
睡眠が十分とれている人では、ストレス等
がいつもある人は少なく、睡眠が不十分な
人では、ストレス等がいつもある人の割合
が多く、睡眠の充足度とこころの健康とは、
深い関係があることがわかります。



- 自分なりのストレス解消法が
「ある」と答えた人が 76.7％を
占め、多くがストレス解消法を
持っていることが分かりますが、
「いいえ」も約 2 割みられます。
また、男性・女性の 18 歳～
20 歳代と男性 40 歳代、女性 60
歳代では「はい」の割合が 8 割
以上で多くなっています。

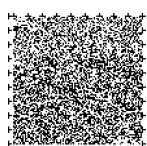


○ 『ストレスを抱えたとき、気軽に相談できる相手』として、全体では「家族」(58.4%)、「友人」(50.9%)が過半数と多く挙げられています。また、「誰にも相談しない」は女性よりも男性で多く、特に30歳代や50歳代の男性では3割弱もみられることが分かります。



	総数	家族	友人	上司・同僚	医師	相談機関 (相談員等)	保健所・健康センター	その他	誰にも相談しない	無回答
全体	915	58.4	50.9	9.6	7.7	1.1	0.8	2.5	14.8	1.9
男性18歳～20歳代	75	44.0	64.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0	2.7
30歳代	70	42.9	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	1.4
40歳代	51	39.2	43.1	15.7	0.0	0.0	0.0	0.0	25.5	5.9
50歳代	42	38.1	28.6	4.8	2.4	0.0	2.4	0.0	28.6	2.4
60歳代	53	37.7	24.5	5.7	9.4	0.0	0.0	3.8	22.6	7.5
70歳以上	28	50.0	14.3	3.6	25.0	3.6	0.0	3.6	21.4	3.6
女性18歳～20歳代	102	70.6	64.7	9.8	2.0	1.0	0.0	2.0	10.8	1.0
30歳代	133	75.2	62.4	13.5	4.5	1.5	1.5	2.3	6.0	0.0
40歳代	82	64.6	57.3	14.6	3.7	1.2	0.0	2.4	11.0	0.0
50歳代	59	59.3	42.4	3.4	13.6	3.4	0.0	5.1	16.9	0.0
60歳代	127	70.1	59.1	1.6	11.0	0.8	1.6	2.4	8.7	1.6
70歳以上	93	55.9	46.2	1.1	25.8	2.2	2.2	7.5	11.8	2.2

注：各行の濃い網掛けは第1位の回答、薄い網掛けは第2位の回答を表す。



(9) 歯の健康

○ 『1日1回は十分な時間（10分程度）

をかけて丁寧に歯をみがいているか』

では、「はい」は31.9%と、

3割強の割合となっています。

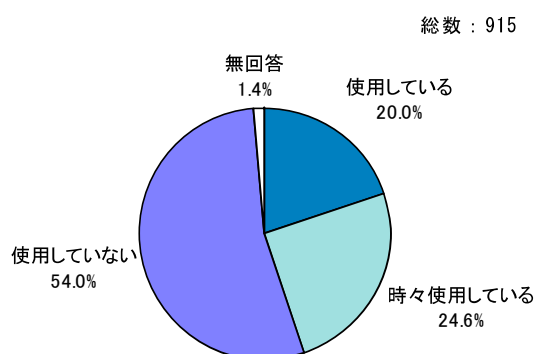
年齢別にみると、「はい」の割合は若年層で比較的多く18歳～20歳代では36.0%で、高齢層では反対に比較的少なく、60歳代・70歳以上では3割を切っています。

単位：％

		はい	いいえ	無回答
全体	(900)	31.9	66.2	1.3
18歳～20歳代	(172)	36.0	63.4	1.3
30歳代	(201)	32.3	66.7	1.4
40歳代	(132)	32.6	66.7	2.0
50歳代	(98)	32.7	66.3	1.0
60歳代	(179)	29.6	67.0	3.4
70歳以上	(118)	27.1	67.8	5.1

注：（ ）内は回答者数

- ### ○ 『デンタルフロス（糸ようじ）や歯間ブラシの使用状況』は、「使用していない」が54.0%と過半数を占め、「使用している」という答えは2割にとどまっています。



(10) 検診の受診

- ### ○ 各種がん検診のうちで、女性の子宮がん、乳がん検診の受診経験が3割前後と比較的多くなっています。

反対に受診が少ないのは肺がん検診で、受診経験が1割を切っています。

